

## 【6】

### 子どものイライラはどこに向かうの（社会的支援：小学校高学年以上向き）

#### 【学習資料】

#### 【朗読劇 しょうた君のイライラ】

ナレーター これはある家族の朝のひとコマです。中学生のしょうた君は最近イライラしているようで、いつも不機嫌な顔をしています。

母 「しょうた、やっと起きてきたのね。早くしなさい！ 学校に遅れるわよ！」

ナレーター しょうた君は無言で食卓に座ります。

母 「また朝から不機嫌な顔して……。おはようぐらい言えないの？」

しょうた 「(小さな声で) 自分も言ってねえし。」

母 「毎日毎日不機嫌な顔をして。何が気に入らないのか知らないけど、お母さんだって忙しいんだから、早くしてよ！」

しょうた 「うぜえ。マジ、むかつくし。」

ナレーター しょうた君はいきなり食卓を立って、無言で学校に出かけて行きました。

母 「行ってきますくらい言いなさい！ほんとにもう！」

ナレーター そこに父親が起きてきました。

父 「朝っぱらから何怒ってんだ？」

母 「あの子、最近いつも機嫌が悪くって。わたしが何を言っても返事もしないし、イライラして無愛想だし。もう、どうしてあんなふうなんだろう。」

父 「中学生なんて普通そんなもんだろ？それに毎日毎日朝からガミガミ言われたら、返事もしたくなくなるさ。」

母 「はあ？私のせいだっていうの？」

父 「そうは言ってないさ。学校でもいろいろあるだろうし、勉強だって大変だろ？しかも家に帰ってきてまで小言ばかり言われたら、不機嫌にもなるだろうって言ってるんだよ。」

母 「じゃあ、どうしたらいいのよ？あなただって考えてよ！」

父 「う～ん。」

母 「そうだ！とりあえずは、あなたが早起きして朝ご飯を一緒に食べるところからはじめましょうよ！」

父 「どうしてそうなるの？」

ナレーター はてさて、しょうた君のイライラはどこから来ているのでしょうか？何か解決策はあるのでしょうか？皆さん一緒に考えてみてください。

【学習のポイント】

○いじめ加害に影響する要因のひとつである、子どものストレスについて考える。

○子どものストレスを軽減することが、いじめの未然防止につながることを理解し、日常生活でできることに取り組もうとする態度を養う。

【すすめ方（80分）】

流れ	分	主な活動	主な発問	留意点
導入	2	1 本研修会のねらいや進め方の説明をする。 (参加・尊重・守秘)	■本研修会のねらいや進め方について説明する。	◆事前に4人グループをつくっておく。 ◆ <b>資料2</b> をもとにストレスについて考えることを説明する。
	13	2 朗読劇を聞いた後、感想を入れながら自己紹介をする。 (1分×人数)	■朗読劇を聞いた感想を入れながら自己紹介をしましょう。	◆事前に参加者に役割演技を依頼しておく。
展開1	10	3 子どもがイライラを感じる原因(時や事がら)を書き出していく。 *模造紙上部に記入	■子どものイライラの原因になる事がらを書き出し、関連するものをつなげましょう。	◆模造紙の使い方について <b>展開例</b> をもとに説明する。
	5	4 イライラが引き起こす言動を書き出す。 *模造紙上部に記入	■イライラの原因から予想される言動を書き出してみよう。	◆会話をしながら思いつくものから記入するよう助言する。 ◆模造紙への記入が少ない場合は、ギャラリーウォークを入れてもよい。
	10	5 書き出したものをもとに、感じたことを話し合う。	■書き出したものを見て、日常生活で思い当たることなどを話し合ってみよう。	◆日常生活と結びつけて考えるよう助言する。
展開2	15	6 子どものイライラを軽減するために、保護者としてできることは何かを書き出す。 *模造紙下部に記入	■子どものイライラに対して、保護者としてできそうなことや考えたいことを書き出し、関連するものをつなげましょう。	◆ファシリテーターは、話合いの内容を把握しておく。 ◆会話をしながら思いつくものから記入

	8	7	ギャラリーウォークをする。	<p>■他のグループの模造紙を見て回り、参考となる取組にシールを貼りましょう。</p>	<p>するよう助言する。 ◆〇〇しないだけでなく、〇〇するという視点で考えてもらうよう助言する。</p> <p>◆シールを一人3枚程度配布する。</p>
	5	8	グループで学習のふりかえりをする。	<p>■今日の学習はいかがでしたか。感想を話し合ってみましょう。</p>	<p>◆ファシリテーターは、各グループの話合いの内容を把握し、参加者全体に伝えていく。</p>
まとめ	4	9	ふりかえりシートに記入する。	<p>■ふりかえりシートに記入しましょう。</p>	<p>◆資料1のふりかえりシートを活用する。</p>
	8	10	ファシリテーターがまとめとする。	<p>■子どものストレスを軽減することが、いじめの未然防止につながります。</p>	<p>◆資料2を配付し、いじめとストレスの関わりを説明する。</p>

【参考資料】

資料1

### ふりかえりシート

○今日の活動を通して、気づいたことや考えたことを書きましょう。

資料(1)

\*必要に応じて、以下のふりかえりシートを使うこともできます。

### ふりかえりシート

今日の活動を通して、やってみたいと思ったことを書きましょう。

	一人で	家庭で	PTAで
すぐに			
いつかは			

資料 2

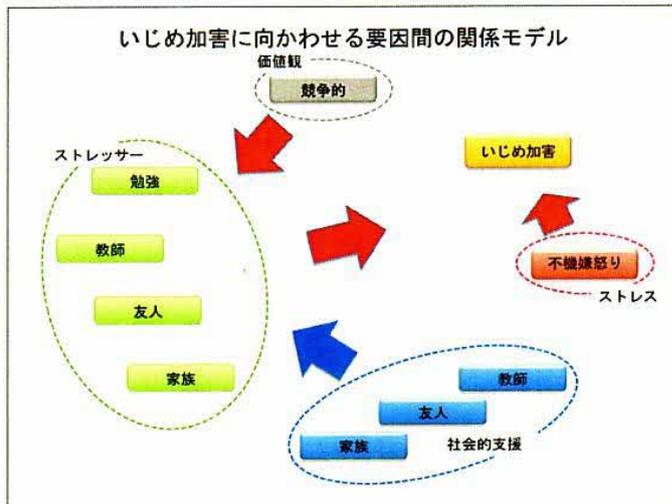
「いじめの追跡調査 2007～2009 いじめQ&A」 (国立教育政策研究所生徒指導研究センター)

■いじめに向かわせる要因は、何か？

Q 『いじめ追跡調査 2004 - 2006 Q&A』では、相関係数を手がかりに、いじめの未然防止に有効な対策は、①ストレスの原因となるストレスラーを減らすこと、②ストレスがあっても行為に及ばないようにハードルを高くする(規範意識を高める)こと、の二通りが中心になるであろうことを指摘しています。その後、新しい知見は得られましたか？

A 誰もがいじめに巻き込まれるということは、家庭環境や個人的な資質に問題があるかどうかとは必ずしも関係なく、その時々で状況でいじめが起きていることを意味します。そこで、前回の小冊子では、加害行為と関連の深い要因として、ストレスやストレスラー(ストレスをもたらす要因)の存在を指摘してきました。

今回は、その議論を一步進める形で分析を行った結果を紹介します。まず、いじめの加害経験と関連の深い(相関係数の大きい)要因を選び出し、それらの要因間に想定される影響の道筋(パス)を仮定します。今回の調査では、ストレスやストレスラーがいじめにつながるという先行研究を踏まえ、下の図に示したようないじめ発生メカニズムを想定した調査票が使われています(これを、いじめ-ストレスモデルと呼んでいます)。調査によって実際に得られたデータをこのモデルにあてはめてデータ処理(共分散構造分析)を行い、要因間の関係の強さを見たのが右頁です。



※赤色の矢印は対照となる事象を促進するように働くことを、青の矢印は抑制するように働くことを、それぞれに示している。  
※各要因を測定する尺度(調査項目)は下の表の通り。

○尺度と調査票の質問項目

〈いじめ加害の尺度〉

- ・仲間はずれにしたり、無視したり、陰で悪口を言ったりした
- ・からかったり、悪口やおどし文句、イヤなことを言ったりした
- ・軽くぶつかったり、遊ぶふりをして、叩いたり、蹴ったりした

〈ストレスの尺度〉

(不機嫌怒り)

- ・いらいらする
- ・ふきげんで、おこりっぽい
- ・だれかに、怒りをぶつけたい

〈ストレスラー(ストレスの原因)の尺度〉

(勉強)

- ・授業中、わからない問題をあてられた
- ・授業が、よくわからなかった
- ・テストが返ってきて、点数が悪かった

(教師)

- ・先生が、よくわけを聞いてくれずに、おこった
- ・先生が、相手にしてくれなかった
- ・先生が、えこひいきをした

(友人)

- ・勉強のことで、友だちにからかわれたり、ばかにされたりした
- ・顔やスタイルのことで、友だちにからかわれたり、ばかにされたりした
- ・自分のしたこと、友だちから悪口を言われた

(家族)

- ・家の人が、成績や勉強のことをうるさく言った
- ・家の人が、友人関係や生活面のことをうるさく言った
- ・家の人の期待は大きすぎると感じた

(社会的支援の尺度)

(教師から)

- ・もし、あなたに元気がないと、すぐに気づいてはげましてくれる
- ・もし、あなたが、悩みや不満を言っても、イヤな顔をしないで聞いてくれる

- ・ふだんから、あなたの気持ちを、よくわかろうとしてくれる

(友人から)

- ・もし、あなたに元気がないと、すぐに気づいてはげましてくれる
- ・もし、あなたが、悩みや不満を言っても、イヤな顔をしないで聞いてくれる

- ・ふだんから、あなたの気持ちを、よくわかろうとしてくれる

(家族から)

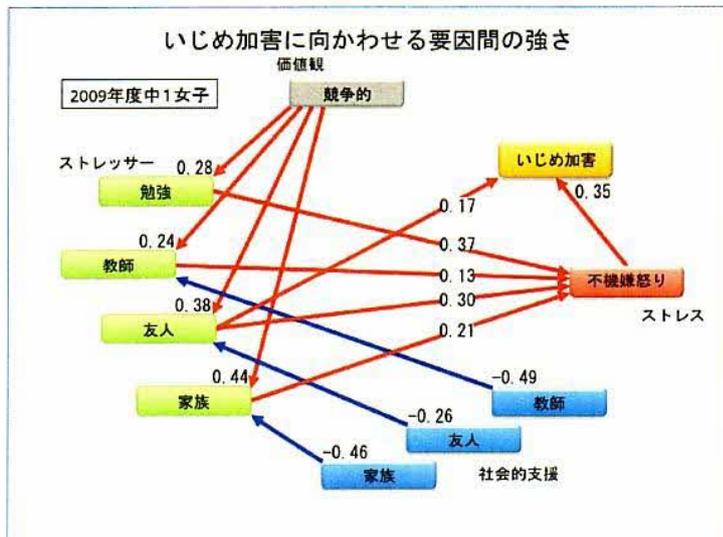
- ・もし、あなたに元気がないと、すぐに気づいてはげましてくれる
- ・もし、あなたが、悩みや不満を言っても、イヤな顔をしないで聞いてくれる

- ・ふだんから、あなたの気持ちを、よくわかろうとしてくれる

(価値観の尺度)

(競争的)

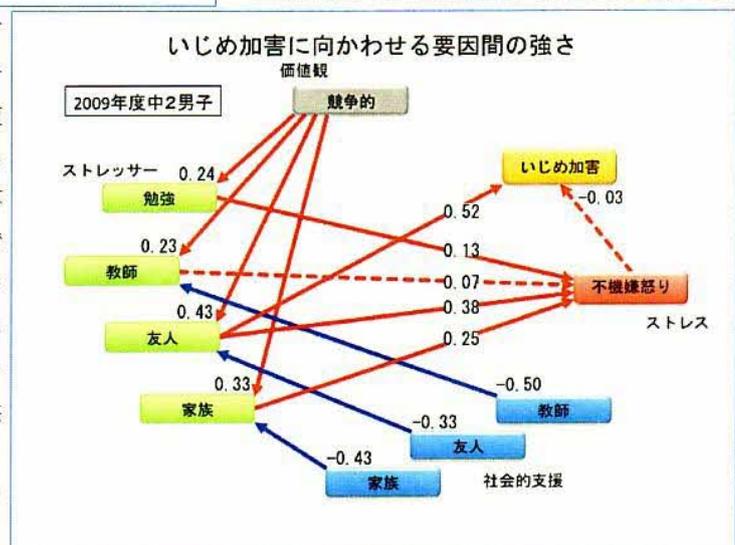
- ・これからの世の中では、勉強の成績が悪いとみじめだ
- ・これからの世の中では、顔やスタイルがよくないとみじめだ
- ・これからの世の中では、人よりも得意なことがないとみじめだ



たとえば、2009年度の中学1年生の場合、左の図のような結果が得られました。まず、「競争的価値観」が強いほど、「勉強ストレス」「教師ストレス」「友人ストレス」「家族ストレス」を感じやすくなり、他方で「教師からの支援」「友人からの支援」「家族からの支援」が強いほど、それぞれのストレスを感じにくくなる。そして、こうした様々なストレスが「不機嫌怒りストレス」を経由して、「いじめ加害」に結びつく。さらに、「友人ストレス」は、直接にも「いじめ加害」に向かわせる働きをする — という道筋が想定できます。

それに対して、同じ2009年度の中学校2年生

の男子の場合、やや異なる道筋が示されています(右図)。「競争的価値観」が強いほど、ストレスを感じやすくなり、他方で「教師からの支援」「友人からの支援」「家族からの支援」が強いほど感じにくくなる。そして、ストレスが強いほど、「不機嫌怒りストレス」を高める — ここまでは同じです。ただし、「教師ストレス」の「不機嫌怒りストレス」に対する影響は、必ずしも強くはない(統計学的に有意ではない)し、「不機嫌怒りストレス」も「いじめ加害」に影響を及ぼしません(共に、破線で表示)。「いじめ加害」に結びつくのは、もっぱら「友人ストレス」であり、他のストレスは無関係と考えられます。

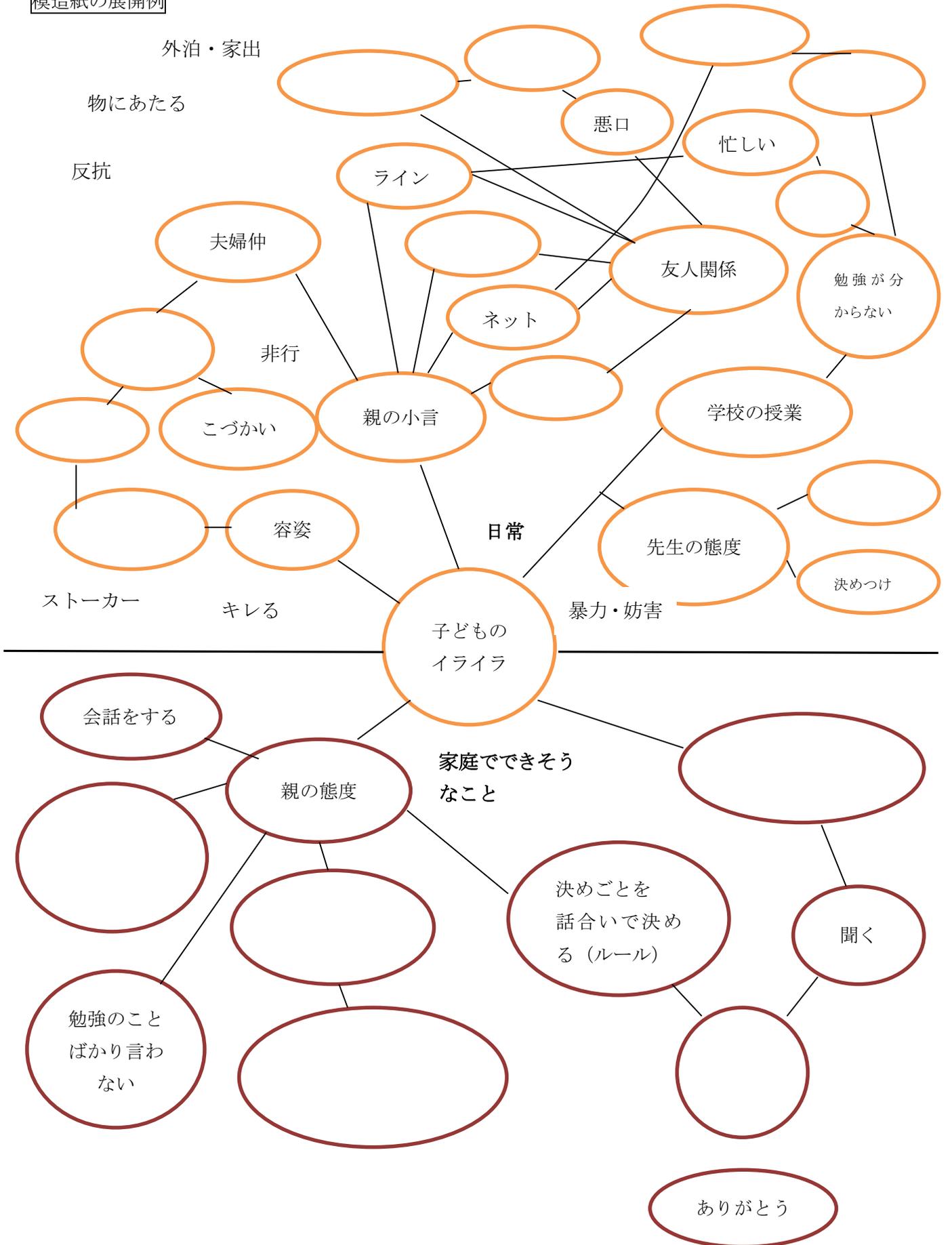


2007～2009年度の小学校4年生～中学校3年生までの男子と女子、計36組(3年間×6学年×2種類)にどのような道筋が確認できるかを調べてみると、36組のうち、①23組は各種ストレスが「不機嫌怒りストレス」経由で間接的に、さらに「友人ストレス」は直接的にも、「いじめ加害」に影響を及ぼしており(左上の図のタイプ)、②13組は「友人ストレス」だけが「いじめ加害」に直接に影響を及ぼしている(右下の図のタイプ)、ということが分かりました。ちなみに、すべてのストレスが必ず「不機嫌怒りストレス」に影響するわけではなく、36組中25組では「教師ストレス」、12組では「勉強ストレス」、6組では「家族ストレス」、2組では「友人ストレス」(以上、重複あり)が影響を及ぼしていませんでした。つまり、「いじめ加害」に向かわせる要因はある程度まで特定されているものの、実際にどの要因が強く働くかは時々の状況によって異なり、そこに学年進行や男女差等による一貫した傾向は見られません。

ただ、「いじめ加害」に対する影響には、直接的なものだけでなく、間接的なものもあります。たとえば、「競争的価値観」は、直接には「いじめ加害」に影響を及ぼしませんが、各種ストレスを高めることで「不機嫌怒りストレス」や「いじめ加害」に間接的に影響を及ぼしていることに注意すべきです。直接的な影響(直接効果)と間接的な影響(間接効果)の合計を総効果と呼びますが、この総効果を順位で比較することで、何が影響力を持っているかを判定してみましょう。

まず、**最も影響を与えていると考えられるのは「友人ストレス」**です。36組中31組で第1位、5組で第2位の影響力を持っており、直接的にも間接的にも影響力が大きい要因です。**次に、「競争的価値観」**です。間接効果しかなくともかわらず、36組中2組で第1位、19組で第2位、15組で第3位の影響力を示しています。**そして、様々なストレスの影響を受ける位置にある「不機嫌怒りストレス」**は、36組中3組で第1位、11組で第2位、14組で第3位あることが分かります。どうやら、この3つの要因がいじめの未然防止の鍵と言えそうです。

模造紙の展開例



## 参考

<模造紙の使い方の説明例>

○模造紙の中央に、“子どものイライラ”と書いて円で囲みましょう。

○円で囲った以外の部分を、上下2等分するように、円から両側に横線を引きましょう。

(展開1)

○子どものイライラの原因になる事がらを、模造紙上部に書き出してみましよう。

○また、関連するものを線でつなげましよう。

○イライラの原因から予想される言動を、模造紙上部の空いたところに書き出してみましよう。

○また、関連するものを線でつなげましよう。

(展開2)

○子どものイライラに対して、保護者としてできそうなことや考えたいことを、模造紙下部に書き出してみましよう。

○また、関連するものを線でつなげましよう。